企画・編集
新日本海新聞社企画開発部

自然林は生命の「聖域」

【第2部】生活に寄り添う森林
3 手付かずの意義

暮らしと森林（もり）の共生

「子どものころからみんなと違う方を向いて生きてきましたから、ダメなものはダメとはっきり言う性分です」と苦笑する鳥取大学農学部の日置佳之助教授。五年ほど前に中国山脈の沖ノ山（標高一、三一八㍍）山系の鳥取県智頭町芦津の芦津渓谷に点在する巨樹・古木をマップにした。

芦津渓谷に点在する巨樹・古木は、スギ、ブナ、ミズナラ、トチノキ、カエデ類など樹種が豊富で、木材の切り出しに使用した軌道跡に沿って点在している。

日置助教授はGPS（全地球測位システム）を使って、点在する巨樹・古木の場所を初めて正確に測定した。主なものでは推定樹齢が約四百年、幹回り六㍍以上のミズナラなどが確認されている。

木材需要の高まりとともに一九六五年から七五年ごろにかけて全国的に国有林が伐採されたが、智頭町の芦津財産区は、地区で所有していた森林を大切に保護するとともに、その一部を自然保護林として県に売却し、伐採を免れた。さらに、九三年に東北の白神山地が世界遺産の指定を受けたため、森林環境を守ろうという機運が高まったことなどが巨樹・古木が残った理由にあげられる。

近年のトレッキングブームもあって手付かずの豊かな自然林と巨樹・古木を求めて芦津渓谷を訪れる愛好家が増えている。

昨年春には町観光協会がトレッキング大会を開催し、芦津キャンプ場を発着点にカエデやブナなどの広葉樹の中、五つの滝を眺める源流コースを経て三滝ダム周辺を歩く約十三㌔のコースを、県内外からの百五十人が楽しんだ。

同町観光協会では「手付かずの自然を一人でも多くの人に楽しんでもらうために、貴重な森林環境を守っていきたい」と話す。

「人工造林に適さない場所は、天然林に戻す方が合理的」と語る日置助教授

環境省の巨樹の定義は人の胸の高さの位置で測った木の幹回りが三㍍以上。日置助教授の調査では、幹回り二㍍以上の大木が二百五十本以上確認されており、三滝ダム周辺で確認された幹回り三㍍のコナラは全国十七位にランクされる。

県内の森林は54％が人工林で、残りの天然林も大半は人手が一度は入った二次林だ。自然林は大山、日南、三朝、智頭、扇ノ山、氷ノ山の一部に残る程度。県内でもかつて自然林を伐採してスギを植えた時期があった。

しかし、必ずしも植えたスギが環境に適合して育つとは限らない。不適地に植えられたスギは樹木本来の機能にも劣り、地滑りや風倒木の原因にもなっている。日置助教授は「気候や地形が人工造林に合わない場所に、無理にスギ・ヒノキを植えてもうまくいかない。人工造林に適さない場所は、天然林に戻す方が合理的」と警鐘を鳴らす。

樹種の豊富な自然林は天然の貯蔵タンクだ。鳥取市民の〝水がめ〟の千代川の水源が沖ノ山山系であることを考えれば、森林の荒廃は、きれいな水が飲めなくなることを意味する。森林が豊かであることの意味は深い。

空を突く巨木。樹齢数百年を越す巨樹・古木は貴重な財産だ＝鳥取県智頭町芦津の芦津渓谷

山陰両県の森林保全などに取り組むNPOなどが参加して「森林を守ろう！ 山陰ネットワーク会議」が設立されました。新日本海新聞社は活動の趣旨に賛同して同ネットワークなどの協力で森林保全の輪を広げる企画を来年3月まで随時掲載します。

山陰の間伐材を利用した紙容器入り
ドリンクプレゼント

連載しています特集・広告に関するご意見を郵便またはFAXで募集しています。抽選で20名様に「間伐材を利用した紙容器入りの飲料」（提供　ポッカコーポレーション／250㎖入り・24本）をプレゼントします。

ご意見をお送りいただく際にお名前、郵便番号、ご住所をご記入ください。締め切りは9月30日消印有効。なお、当選者の発表は商品の発送をもってかえさせていただきます。

ご記入いただいた個人情報はプレゼントの発送のみに使用させていただきます。

〒690―0062　松江市魚町10
山陰合同銀行地域振興部内
「森林を守ろう！山陰ネットワーク会議」プレゼント係
TEL0852―55―1820
FAX0852―28―0495

森林保全活動レポート その⑧

名峰・大山を望む森。この美しさを子どもたちに伝え、いつまでも残していきたい。

今回の森林保全活動レポートその⑧に登場する

丸山生産森林組合

昭和31（1956）年設立。現在の組合員数は77人（平成17（2005）年12月時）。名峰・大山のふもと伯耆町を拠点に、「伯耆町豊かな森づくり実行委員会」主催のもとで森林保護のほか、さまざまな啓発活動を進めています。そのひとつが、「美しい森づくりを教育に生かそう」との目的で実施されている体験教育。枝打ちや葛切り、草刈り、炭焼きなどの体験をとおして、地元の小中学生に丸山の森の素晴らしさと、それを守ることの大切さを伝えています。平成17年には、社団法人鳥取県緑化推進委員会が選出する中国・四国地区緑化功労者のひとりとして、組合長の小西護郎さんが選ばれています。

豊かな緑を子どもたちの未来へ！
森林を守ろう！山陰ネットワーク会議

山陰の森林に関する活動を展開しているNPO法人やボランティア団体を中心にネットワークを構築し、森林保全の輪を広げる活動を展開します。

陽光に輝く緑のなか、森に分け入った子どもたちが、カマを手に夏草と格闘していました。
古来から「伯耆富士」と呼ばれ、愛されてきた名峰・大山。
その美しい山肌を正面に見ながら、草刈り体験がはじまったのです。
この日の主役は、地元の中学生たち。
森林環境保全税を活用した「職場体験」の一環として、この山に入り、枝打ち、葛切り、草刈り、炭焼きなどに汗を流しました。
ここは、鳥取県の西部に位置する伯耆町。
「伯耆町の自然は、実に美しい。人もいいし、農産物の味もいい。そしてなにより、正面から見る大山の姿。農林水産省の『農林景観百選』にも入った美しい田園風景は、多感な中学生にぜひ守り続けてほしいですね」
地域の森林保全の輪をひろげるため、丸山生産森林組合の人たちは、日々努力されています。

「カマをもつのは初めて」という生徒もいたけど、コツを教えてもらいながら地元の森の整備のお手伝いをしました。この後は、飯ごうをつかったご飯炊きにチャレンジしました。

今後の活動予定（参加は自由です）

伯耆地区の80％を占める森林を大切にしてほしいから、今後も職場体験に代表されるような啓発活動を推進していきます。

森林を守ろう！山陰ネットワーク会議 参加団体のみなさん（6月18日現在）

※50音順

鳥取県
NPO法人　賀露　おやじの会（鳥取市）
NPO法人　サカズキネット（倉吉市）
広葉樹文化協会（鳥取市）
財団法人　南部町地域振興会（南部町）
大山横手道上ブナを育成する会（米子市）
鳥取県木造住宅推進協議会西部支部（米子市）
鳥取市女性の森グループ（鳥取市）
トトリネット（米子市）
日野川の源流と流域を守る会（日野町）
丸山生産森林組合（伯耆町）

島根県
出雲市林業振興協議会（出雲市）
NPO法人　緑と水の連絡会議（大田市）
NPO法人　もりふれ倶楽部（松江市）
源流の森里山づくり（邑南町）
財団法人　島根県西部山村振興財団（浜田市）
里山を育てる会（松江市）
しまねフォレスト・ネットワーク出雲（出雲市）
薪ストーブ同好会（松江市）
松江ネイチャーゲームの会（松江市）
木質バイオマスエネルギー地産地消ネットワーク（松江市）
森の仲間（出雲市）
遊木民倶楽部（益田市）

特別協賛
新日本海新聞社
山陰中央新報社

特別協力
凸版印刷株式会社

この広告に関するお問い合わせは事務局まで
山陰合同銀行 地域振興部内
島根県松江市魚町10 〒690-0062
TEL.0852-55-1820

みんなで森を守ろう！